
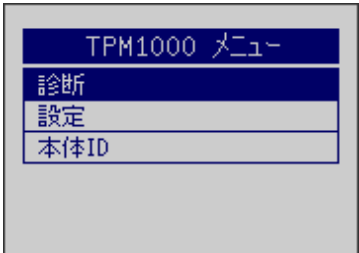

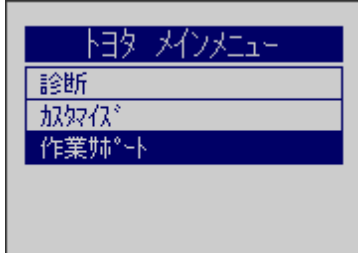
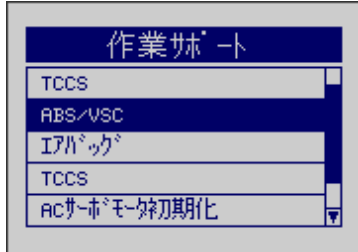
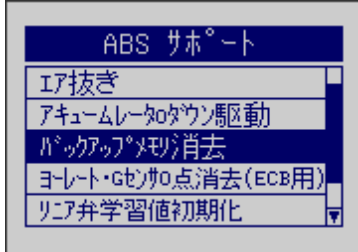
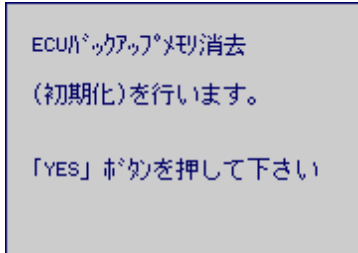
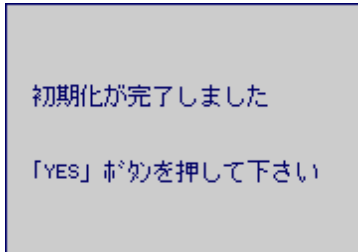


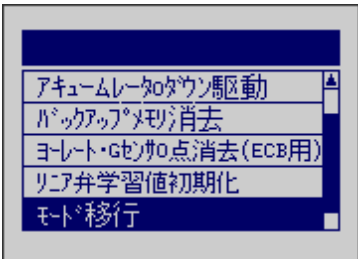
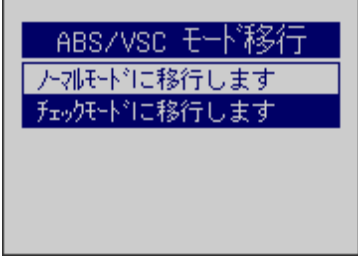
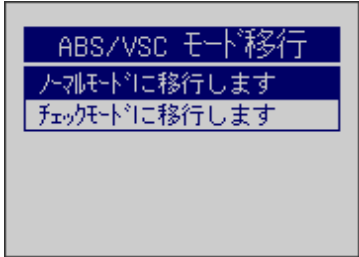

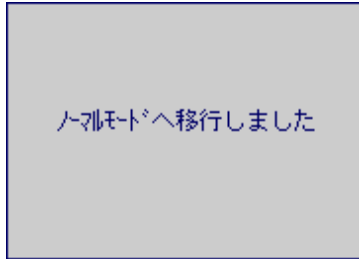
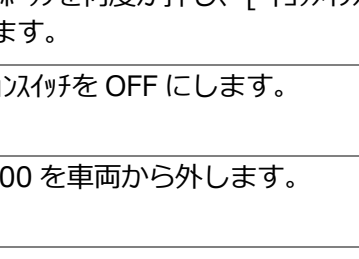

プリウス α のリニア弁オフセット 学習方法 (ZVW40 型系)

- 注意 -

- ・ブレーキペダルストロークおよびブレーキペダルのいずれか交換を行った場合、リニア弁オフセット学習およびブレーキペダルストローク0点学習を実施します。
- また、エア抜き作業実施後に、ABS や電子制御ブレーキシステム(ESB)のウォッシングランプが点灯し、ABS システムに故障コード「C1345:リニア弁オフセット学習未実施」などが検知された場合に、以下の手順でリニア弁オフセット学習を実施します。

	<p>リニア弁オフセット学習を正常に完了させる為、実施前に以下の項目を確認して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・READY ON 時の補機バッテリー電圧が正常 (10V 以上) ・ブレーキパッキンが高温になっていない ・ドアを閉めた状態
<h3>リニア弁オフセット学習およびブレーキペダルストロークセンサ0点学習値記憶消去</h3>	
<p>1.</p>	<p>イグニッションスイッチが OFF であることを確認し、TPM1000 を車両に接続します。</p>
<p>2.</p>	<p>シフト位置 P ポジションで、パーキングブレーキが OFF であることを確認し、イグニッションスイッチを ON にします。(ブレーキペダルを踏まずに、パワー(イグニッション)スイッチを2回押します)</p>
<p>3.</p>	<p>[診断] を選択します。</p> 
<p>4.</p>	<p>[TOYOTA] を選択します。</p> 

<p>5.</p>	<p>[作業メニュー] を選択します。</p> 
<p>6.</p>	<p>[ABS/VSC] を選択します。</p> 
<p>7.</p>	<p>[バックアップメモリ消去] を選択します。</p> 
<p>8.</p>	<p>[YES] ボタンを押して実行します。</p> 
<p>9.</p>	<p>バックアップメモリの消去が完了しました。 [YES] ボタンを押して、ABS メニュー画面に戻ります。</p> 
<h3>リニア弁オフセット学習およびブレーキペダルストロークセンサ0点学習実施</h3>	
<p>10.</p>	<p>続いて、[モード移行] を選択します。</p>

		14. [YES] ボタンを押して、モード移行画面に戻ります。
11.	[チェックモードに移行します] を選択します。 	15. [ノーマルモードに移行します] を選択します。 
12.	チェックモードに移行しました。 	16. ノーマルモードに移行しました。 
13.	2 分間ブレーキペダルを操作せず車両静止状態を保ち、ブレーキ警告灯（黄色）の点滅が 1 秒周期から 0.25 秒周期の早い点滅（ABS 警告灯とスリップ表示灯と同じ早い点滅）に変化し、リア弁セット学習が完了したことを確認します。 	17. [NO] ボタンを何度か押し、[トクメインメニュー] まで戻ります。
18.	2 分間ブレーキペダルを操作せず車両静止状態を保ち、ブレーキ警告灯（黄色）の点滅が 1 秒周期から 0.25 秒周期の早い点滅（ABS 警告灯とスリップ表示灯と同じ早い点滅）に変化し、リア弁セット学習が完了したことを確認します。 	18. トラクションスイッチを OFF にします。
19.	TPM1000 を車両から外します。	19. TPM1000 を車両から外します。



- ・リア弁セット学習実施中は、走行およびブレーキペダルの操作は行わないで下さい。
- ・シフト位置 P ポジション以外でテストモードに移行すると、ヨーレートセンサおよび G センサの 0 点未補正異常コードを記憶します。
- ・チェックモードに移行してもウォーキングランプが点滅を開始しない場合は、一旦ノーマルモードに移行し、トラクションスイッチを OFF→ON した後に、再度行って下さい。
- ・補機バッテリーの電圧が低下すると、途中で学習が出来なくなる場合があります。
- ・学習終了までに要する時間は、補機バッテリー電圧により異なります。